



合同で祈とうを受けました



いろいろと教えてくれた  
長岡孝康宮司

**神** 事を執り行っていたのは長岡孝康宮司(赤川)。厄年はどうして男女で時期が違うのか不思議に思っていたので、厄年のいわれを伺ってみると「厄年は男性が2・5・8、女性であれば3・7・9の付く年で、大厄と言われるのが、33歳、42歳、還暦となります。この大厄のときに厄を落として、祝うので年祝いなんですよ。この大厄は33歳であれば育児、42歳は仕事への責任、還暦は定年に重なります。毎日の生活の中ではなかなか気付かないのですが、一つの区切りですね」。まさに人生の節目の行事なんです。ところで皆さん体に紙で出来た人形をこすり付けていきましたが? 「紙の人形は形代かたしろというもので、体に付いた汚れや罪といったものを形代に移して、お払いをするものです。いつもは川に流すんですが、今は雪が積もっているので、境内でお焚上げたきあげをします。同じように川に流すものとしては、ひな祭りや夏の竿灯かんとうなどもあって、これらをねぶり流しと言つんですよ。夏の時期、私たちは眠気(病などの悪いもの)に誘われるので、この眠気を流すことからねぶり流しと言われているんです。また、青森のねぶたもねぶり流しがなまったものなんです。

歩いて会って何でも話す  
ワクワクの突撃取材

# あつてグッド

市民の皆さんが  
たくさん登場

## 募集

ご町内でのイベントをお知らせください。取材に伺います。広報広聴係 ☎43-7025

これまでの  
登場者数 746人

81,036人  
(H22.2.1現在)

「あつてグッド」は、歩いて行くの方言「あつてえぐ」と会って良かった(グッド)を掛け合わせ、もじったものです。



33歳を迎えた皆さん

すよ」。へえ、形代を川に流す神事が発達して夏の多彩なイベントになったんですか。いやあー大変勉強になりました!

**家** 族で会場にやってきたのは、北林透とほろさん(外川原さん、百合子りこさん)ご夫婦と、仲谷垂矢あやこさん(末広町)と夕凧ゆうなちゃん、玲奈れいなちゃんの娘さんご家族。「まさか、娘と一緒に年祝いを迎えられるとは思わなかった。めったに無いことだからうれしいね」と透さん。垂矢あやこさんは神事を終えて「新年早々病気にかかったので、厄を落としてすっきりした気分です」とのこと。厄を落として心機一転! やっぱり健康が一番ですよ。ね。

**祈** とうを受け厄を落とし、人生の大きな節目を迎えた皆さんは、今後の人生を無事健康に送ることを誓い合っていました。私の厄年まではまだ先がありますが、日々気を付けて生活していかなくては...では、次回もあつてグッド!



左から垂矢子あやこさん、玲奈ちゃん、透さん、百合子りこさん、夕凧ゆうなちゃん

## はみだしてグッド

全国的には、厄年のかたに厄よけのために長いもの(ベルトやスカーフ、ネクタイなど)を贈る風習があるそうです。